

型紙捺染による手紬糸の絣染色

【開発の背景】

現在、結城紬産地で行われている手紬糸への絣染色の方法は、手括りによる防染技法とヘラを用いて直接染料をすり込む染色技法の 2 種類となっています。

両技法とも絣糸を作製するためには一定の糸量が必要な技法であることから、同じ絣柄が繰り返される反物の作製には適していますが、絣柄を一部に配置した反物には、糸の無駄が生じるため不向きな技法となっています。

支援先企業である結城紬 rico では、オーダーメイドによる反物生産に取り組んでおり、その中で反物の一部に絣柄を配置したデザインの要望があったことから、今回効率的に絣糸が作製できる型紙捺染による手紬糸への絣染色について、取り組むことになりました。

【開発の経緯・支援内容】

絣染色には、「絣柄に滲みがないこと」「糸への染料の浸透性」、「図案に添った柄で製織が可能」などの条件を満たす必要があります。

今回センターでは、手紬糸の型紙捺染に適した糸の糊付けや染料液の調整、糸配列などの各種加工条件の選定に関する支援を行いました。(図 1)



図 1 試作試験結果
(左：図案 中央：手紬糸への捺染染色結果 右：試織結果)

【開発した製品の紹介】



現在、支援先企業では、反物の一部に型紙捺染による絣染色を取り入れた反物の製品化に取り組み、販売につなげています。(図 2)

図 2 型紙捺染による絣染色製品

基礎となった事業

平成 26 年度 オンリーワン技術開発支援事業（受託研究）

現在の担当部門

紬技術部門

部 門 長

篠塚 雅子

TEL:0296-33-4154

主任研究員

中野 睦子